

■(にっぽん)音吉(乙吉) 遭難してアメリカに漂着、モリソン号で送還も叶わず、上海で、日本人漂流民の帰還に尽力。

おときち

群書類従完結1819=

現在の愛知県美浜町知多半島の小野浦で、船乗りの子に生まれる。

シボク事件・1828= 9歳:

鼠小僧磔・・・1832=12歳: \*見習船員として乗組んだ江戸に向かう船が途中で遭難し、

1年あまり漂流する間、乗組員は次々と死亡、

高島砲術・・・1834=14歳: 生き残った3人は、アメリカの西海岸のワシントン州に漂着、先住民のマカ族に捉えられるが、

滑稽+人情本 1835=15歳: 日本との通商を目論むイギリスのハドソン湾会社の社員が、3人のことを聞きつけ、金を払って引取り、ロンドンに送られ、1日だけながら日本人で初めて上陸後、日本に送還されることになって、マカオに到着。

・・・1836=16歳: 3人が託されたマカオ在住の宣教師ギュツラフに日本語を教え、聖書と訳に協力、

大塩平八郎乱1837=18歳: \*聖書は印刷され、現存最古のものになるが、他の漂流民とともに、3人はモリソン号に乗せられ、日本に向かうも、外圧恐れる幕府によって砲撃されたため(モリソン号事件)、断念。マカオに戻ると、ギュツラフのもとで通訳として養成されることになった仲間と別れ、商船や軍艦に乗組み、

勸進帳初演・1840=21歳: この年始まったアヘン戦争にも従軍、

天保改革始・1841=22歳: この年、遭難・漂流してスペイン船に救助されるもカリフォルニアに放置され、苦難の末マカオに辿り着いた紀州の船頭善助の日本への帰国を助ける。

天保改革弾圧1842=23歳: アヘン戦争終結後、広州から上海に進出したデント商会に就職。英語にも不自由なくなり、英国女性と結婚して、ジョン・オトソンを名乗る。

阿部正弘首座1845=26歳:

孝明天皇・・・1846=27歳:

妻が早世してしまったため、シンガポール出身のマレー女性と再婚、3人の子をもうける。

北斎没・・・1849=30歳: 中国人林阿多と名乗って、イギリス軍艦に通訳として乗組み、浦賀と下田に来訪、役人からはどうみても日本人だと疑われる。

この間、たびたび漂流日本人の帰国を支援、

ペリー来航・1853=34歳: \*3年前に遭難しアメリカ船に救助され、この年、日本との交渉に利用すべく軍艦サスケハナ号で上海に連れられた栄丸の乗組員13人を訪ね、艦長をなだめすかして12人を下船させ、怒ったペリー提督の使者とも渡り合って匿い、中国船で無事日本に帰還させ、6度目の漂流民支援となる。

開国開港・・・1854=35歳: 日英和親条約締結にあたり、イギリス極東艦隊司令官の通訳に雇われて長崎に来航、遊学にきていた福沢諭吉と会い、堂々と世界情勢を語り、日本側の帰国の勧めに、上海に家族がいると断る。

安政大地震・1855=36歳: イギリスの新聞に音吉の長崎訪問時のスケッチと日本に関する長文の談話が掲載される。

桜田門外変・1860=41歳:

中国を支配するイギリスのあり方を見るうち、やがて日本も脅かされるのではと危惧し始めたのか、

生麦事件・・・1862=43歳: 病気療養を理由に、妻の実家のあるシンガポールに移住。直後に、幕府初の遣欧使節がシンガポールに寄港したのを知ると、懐かしさのあまり宿泊先のホテルを訪れ、漂流後今日に至るまでの身の上話をして涙を誘っている。随行していた福沢諭吉とも再会することになり、再び世界情勢など歓談。使節団の後続隊として森山多吉郎らが立ち寄った際にも、ホテルを訪ねている。

禁門の変・・・1864=45歳: 幕府2度目の遣欧使節が派遣された際の団員田中廉太郎に会ったのが日本人の最後となり、結局、日本へ帰ること断念、ジョン・M・オトソンの名でイギリスへ帰化申請して市民権を獲得し、日本人で初めてイギリス人となったが、

大政奉還・・・1867=48歳: 病の末\*シンガポールで没した。